

青森温泉巡り

その22

不老ふ死温泉 — 日本海に沈む夕陽が美しい —

日本海に沿って五能線の列車を乗り継ぎ、深浦を過ぎると右手に大きな半島が見えてきます。その先端の黄金岬に位置するのが有名な不老ふ死温泉です。

海を見下ろす高台に新館、左手に本館があって、本館の内湯から海岸まで遊歩道が伸びています。その遊歩道の突き当たりの磯に、CMなどで有名になった、ひょうたん型の混浴露天風呂があり、すだれを挟んで女性専用の露天風呂も並んでいます。

黄土色の湯で、泉質は含鉄-ナトリウム・マグネシウム-塩化物強塩泉。加水掛け流し方式で、夏は適温、冬は少しぬるいくらいです。波しぶきをあげる磯の向こうに日本海が広がり、日没時にはその日本海が金色に染まります。

実は、青森市の西、陸奥湾沿いの平館という所にも、不老ふ死温泉と呼ばれる温泉があります。300年の歴史

をもつ、津軽半島では最も古い温泉です。わずか30年の歴史の黄金岬不老ふ死温泉と比べて有名ではありませんが、硫酸塩泉・弱アルカリの掛け流し湯で、しっとりとした静かな温泉場です。

夏の日没時には、露天風呂は大変混雑する。真冬に日本海からの風雪に耐えて入るのが醍醐味かもしれない。



不老ふ死温泉のHP：

<http://www.fuofushi.com/>

こちら編集委員会です

【学会誌のページ数にご注目を！】

読者の皆さんは、プラズマ・核融合学会誌をどのように保管されていますか？本棚に並べて眺めてみると、背表紙の厚さ、つまりページ数の変化がよくわかります。2、3年前、40ページ程度しかない薄い学会誌が届いたことがありましたが、今年度の学会誌は、平均して約80ページのボリュームとなっており、なかでも2013年6月号・11月号・2014年1月号では100ページを越えました。この2013年6月号には44ページにわたる小特集、11月号にはプロジェクトレビュー(48ページ)に加えて小特集(52ページ)、そして1月号にはプロジェクトレビュー(38ページ)と小特集(33ページ)が掲載され、いずれの号も、美しいカラー図がたくさん掲載されたにぎやかな紙面、読み応えのある記事といった盛りだくさんの内容になっています。

さて、次回3月号は3月25日発行の予定です。何ページになるでしょうか、乞うご期待。

【3月号予告】

解説 高温プラズマのX線観測で宇宙の大規模構造の形成を探る

講座 プラズマプロセスを用いた炭素材料合成の実際と産業利用における課題(最終回)

特別付録 プラズマ・核融合学会カレンダー(今年は使いやすい卓上カレンダーです)